

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

地元熊本や九州の農産物を使用しながら素材の特徴を最大限に引き出す価値ある商品づくりを行い、食の安全・安心を基本とし、企業の社会的責任を果たすとともに、地域やすべてのステークホルダーに寄り添いながら明るい未来をつくる企業として貢献し、発展を目指す。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取組み	指標 (更新時に向けた数値目標)
☐ 環境 ☒ 社会 ☒ 経済	ひとり親や貧困世帯の子どもたち、生活困窮者に対する支援	子ども食堂・ウクライナ避難民支援回数 2023年15件 → 2026年20件以上
☒ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	食品ロスの減少	・当社製品、原料を使用した商品の賞味期限延長 2023年まで:8銘柄(見込み含め) →2026年度まで10銘柄 ・生産時のロス粉の削減(製品または飼料化) 2023年:9,000kg →2026年:25,000kg
☒ 環境 ☐ 社会 ☐ 経済	地下水保全への対策	涵養地域の小麦、米を購入 2023年:約2万トン→2026年:維持

<パートナーシップ>

・JCVへ定期的にハガキやペットボトルキャップ等での寄付活動
【2023年度】ハガキ:451枚(ポリオ1300人相当)寄付、キャップアクションへの参加等)
・YMCAフィランソロピー協会へ使用済み切手寄付
【2023年度】340g寄付(約442円分)

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。
・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。

<SDGsに関するこれまでの重点的な取組み及び指標に係る進捗状況>

三側面 (分野に☑)	取組みの状況	前期の指標	実績
☐ 環境 ☒ 社会 ☒ 経済	ひとり親や貧困世帯の子ども達、生活困窮者に対する支援 フードバンク等への支援および依頼があった際にウクライナ避難民への支援を継続的に行うことができた。	子ども食堂やフードバンクへの継続的支援(年2回)	2023年15件
☒ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	食品ロスの減少 寄付、生産状況見直し、賞味期限延長など様々な方法を用いた食品ロスの削減に取り組んだ。	①当社製品、原料を使用した商品の賞味期限延長(D+2→D+3へ) ②低菌そば粉の開発	①8銘柄で延長可能見込み ※現在社内最終審議中。2024年までに確定見込み。 ②2023年:滅菌設備導入
☐ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	時間外労働の削減 新型コロナウイルス感染症の影響による人手不足を時間外労働で対応した為、削減できなかった。	DX推進に伴う業務効率化 2023年10%減(2020年比)	2023年1.04%増(2020年比)

・「取組みの状況」には、前回登録申請した際の重点的な取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。